

政務活動費はどうじゃないな

「ピンチをチャンスに変えるという言葉
葉がありますね」

「実際にはかなり難しいことやと思いますけど」

「名張市はいまや財政が大ピンチを迎えてまして」

「だからこそ市議会議員の先生がたが二泊三日の行政視察なんかしててええのかという声も出てくるわけです」

「せやからもう行政視察なんか廃止してしもたらええと思うんですけど」

「多少でも市の予算が節約できます」

「市民からは圧倒的な共感と支持を集めるはずです」

「全国的な話題にもなるでしょうし」

「衰退一直線の地方自治体の議会がどうあるべきかという先例を名張市が提示することになるわけです」

「衰退の時代の新たなモデルを名張市議会がお示しいたしますと」

「つまり名張市は重大なピンチのなかで次の時代を開くためのチャンスを手にしているんです」

「名張市はそのチャンスをちゃんと生かすことができるんですか」

「絶対無理ですね」

「なんでですねん」

「名張市だもの」

「答えになってませんがな」

「けど名張市ももうちよっと現在のピンチを直視して将来のために手を打たないとだめでしょうね」

「いいいますと」

「たとえばこのあいだ名張市地域活力創生会議ゆうのができましたけど」

「なんですんねんそれ」

「伊賀タウン情報Y.O.Uの四月十五日付ウェブニュースによりますと『地方活性化を目的に、国が昨年に閣議決定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を受け、市独自の総合戦略策定す

るため、名張市は4月15日、庁外からの意見を取り入れたいと、産学官民の12人で構成する名張市地域活力創生会議を立ち上げた。9月までに4回の会

合を持ち、意見を出し合う』

「その会議に問題があるんですか」

「ゆうても名張市ですよ」

「それがどうしました」

「まちなか再生事業であれだけの大失敗を演じた名張市に地方創生なんかできるわけありませんがな」

「それとこれとは話が別やと思いますけど」

「再生やろが創生やろが名張市がなんの考えもなくただ国の思いつき施策に振り回されてるだけの話ですから」

「たしかにそんな気もします」

「名張のまちのピンチをまちなか再生事業でチャンスに変えるといいながら大ピンチに変えたあぐくゲームセットに追い込んでしまったという過去の実績から判断しますと」

「ゲームセットではあきませんがな」

「名張市は地域活力創生がどうたらこうたらいいながら地域の息の根を完全にとめてしまうはずなんです」

「なんでそうなりますねん」

「名張市だもの」

「それでは答えになってないゆうてますがな」

「国がやれまちづくり交付金やほれまち・ひと・しごと創生やと適当なことゆうてるあいだに地方は衰退一直線でもうぼろぼろになってるんです」

「名張市はほんとにそんな感じですよ」

「ですから行政視察を廃止するくらいのことを考えるべきなんですけど市議会の先生がたには無理でしょうね」

「そんなことないでしょうけど」

「手前どもはなにも考えさせていただかないことにさせていただいております」

「それ名張市役所のみなさんのこととちごたんですか」

「名張市議会の先生がたも似たようなものなんです」

「どこが似てますねん」

「どちらも地域社会の寄生虫みたいな存在ですから」

「人を回虫とか蟻虫とか条虫とかみたいにゆうてたらあきませんか」

「ところが難儀なことに宿主である名張市がほぼ死にかけてまして」

「話がだげさすぎませんか」

「宿主が死んだら寄生虫も死ぬわけですから先生がたにはそのへんの事情をよくわきまえていただきませんか」

「寄生虫とか宿主とかそういう問題では全然ないですから」

「三月七日付伊和新聞に『記者の目』というコラムが掲載されてまして」

「なにが書いてありました」

『合併がなかった名張市は、財政非常事態宣言をしながら、議員報酬は伊賀市より多く、県下で3番目と報じられた。職員の給料も北勢の自治体並みであり、伊賀市より多い』ゆうよなことでございまして」

「名張市の議員先生も職員のみなさんもそこそこ恵まれてるみたいですね」

「しかも議員先生がたの場合は議員報酬とは別に政務活動費も支給されますから」

「政務活動費は去年の夏に兵庫県議会の先生による号泣会見で一躍話題になりましたけど」

「名張市議会でもいろいろ面白いことがあるみたいです」

「どんなことですか」

「たとえば一昨年七月十二日付伊賀タウン情報YOUの政務活動費に関する記事によりますと『名張市議会では7つある使途項目の資料作成費で、清風クラブ（5人）の70代男性議員が使用不可の慶弔費に該当する香典袋代計652円を請求していた。議会事務局に取材した1週間後、同議員は現金で市に返還。事務局も収支報告書を修正した』ゆうよなことでした」

「お葬式の香典袋代を政務活動費として請求していらつしゃったんですか」

「そろそろおのれが香典もらわんならんような齢になって欲げけ先生なにをなさましい真似さらしとるのかと」

「ちよつと困ったもんですね」

「ですから宿主をこれ以上むさぼるのはやめてくださいという願いも託しつつ教育民生委員会の副委員長さんにメールをお出ししたんですけど」

「いまだにご返事を頂戴できないと」

「お葬式でお忙しいんでしょうか」

「お坊さんやないんですから」